

「交流部会」の取り組み

部長 山田泰之

神原中：笠原健史、宮國祐也、上間里花
古澤利恵子、山城悦子、嶺井圭子

神原小：田畑純人、久田輝子、下地珠美、
新垣千佳、鈴木誠、儀武裕子、
池村一隆、新垣セリ菜、玉城道子

壺屋小：金城孝之、知花京子

1. 取組の趣旨

本部会は、小中一貫教育の目的である「義務教育9カ年を見通した教育実践」と「中1ギャップの解消」をめざして、下記の事項をねらいとする。

- (1) 交流行事の中で、相互に協力し連携することで、神原中校区の児童生徒の一体感・所属感を高める。
- (2) 計画的・継続的な交流活動を通して、児童に中学校生活に対する希望や抱負を抱かせ、中学校生活へのスムーズな移行を図る。
- (3) 児童生徒が交流する機会を持つことで、異学年のふれあいの中から豊かな人間性や社会性を育成する。

以上の4点を踏まえた交流行事を実施することで研究主題「自ら考える力を育て社会性を身に付けた児童生徒の育成」に迫る。

2. 活動内容（様子）

昨年度の試行期間で実践した取り組みの成果と課題を踏まえ、今年度の取り組みがさらに深まるように留意しながら、検討し実施することとした。

今年度取り組む交流行事は、「部活動見学(2回)」「小中合同保護者授業参観」「合唱コンクール」「小中特別支援学級の交流会」の4つである。

4つの行事を実施する際には、交流部の18名を4つの班に分け、それぞれの班で実施要項等を作成し、3校職員に共通確認を図るようにした。

(1) 部活動見学（6月・2月）について

昨年度1回実施（2月開催）を今年度は、2回に増やし、充実を図った。1回目は、中体連の大会で3年生が主となって活動している最も活発な地区夏季大会の直前に計画をした。ただし、計画した当日に台風が接近し中止となった。以下は、その計画案である。

① ねらい

ア. 小学生（6年生）が中学校生活の様子を聞き、同時に部活動を見学することで、中学校生活の期待感を高め、部活動に対する意欲・関心を高める。

イ. 中学生が小学生へ向けて話をし、部活動を行っている姿を見せることで、先輩としての自覚を高める。

② 日時 6月5日（火）15:30～16:30

③ 場所 神原中学校・神原小学校体育館

④ 方針

ア. 各部活動のキャプテンが部活紹介を行った後、児童は各クラスにわかれ担任が引率して全部活動を見学させる。

イ. 各部活動見学は3分以内とする。（ただし、体育館の部活動は1分以内とする。）

⑤ 日程

開会式（神原中ピロティ） →
部活動見学（最後の男女バドミントン部は神原小体育館で活動紹介） →
閉会式（神原小）

⑥ 見学の流れ

女子バレー部 → 男子バスケットボール部 → 女子バスケットボール部 → 剣道 → 卓球 → サッカー部 → 野球部 → ソフトテニス部 → 吹奏楽部 → 男女バドミントン部

このような見学コースを3コース（3クラス分）に分ける。

(2) 小中合同保護者授業参観について

昨年度の実践は、両小学校・中学校3校の授業参観の日時を合わせ実施することであったが、今回は、それに、相互乗り入れ授業を導入し実践した。

① ねらい

ア. 授業参観を小学校、中学校が同日に実施し、乗り入れ授業や相互乗り入れ授業を通して、神原中校区小中一貫教育校の取り組みの様子を知らせる機会とする。

イ. 小中の教職員が、お互いの授業を参観（教職員のこと）することにより、指導力の向上を目指す。

② 期日 9月12日（水）1校時～3校時

③ 仕事分担

	仕事内容	担当教師
1	公文発送	神原中教頭
2	各学級授業一覧	各校教頭
3	各学級名簿	P T A事務
4	アンケート作成(保護者向け)	神原中教務
5	アンケート集計(保護者向け)	各校教務
6	アンケート(3校職員向け)配布	各校教務
7	アンケート集計(担当者向け)	各校教務
8	立て看	各校教務
9	写真	各学校

④ 留意事項

- ア. 公文は、3校連名で発送する。
- イ. 公文の裏には、各校・各学級授業一覧(3校分)を記載する。
- ウ. 校内に小中合同保護者授業参観の掲示(立て看)をする。
- エ. 保護者に普段の授業参観と違う点をアピールする。
 - ・相互乗り入れ授業を見ることができる。
 - ・3校のどの授業でも参観することができる。
- オ. 小中合同保護者授業参観後、3校職員へアンケートを依頼、集計をしてまとめる。また、保護者へも授業参観のアンケートとり、参考にする。

⑤ 乗り入れ授業の実施教科

- ・実施教科：社会(神原中3年)、
 体育(神原中1年)

※小学校の教師が中学校でT2で授業に参加した。

- ・実施教科

	1校時	2校時	3校時
壺屋小	国語(4年)	理科(5年)	
神原小	国語(3年)	国語(3年)	算数(5年)
	算数(4年)		道徳(6年)
	図工(6年)		

※上記の表の授業に中学校の教員が授業参観を行った。



〈社会〉 乗り入れ授業 〈保健体育〉

〈保護者アンケート〉より

- 中学校と小学校の両方に子どものいる家庭では、助かります。仕事をしている親が多いので、休みを半日取るだけで、小中両方参観できるのでよい。
- 他校の授業風景を見れるのは、よいことだと思う。
- 継続を求む。
- 時間帯が同時だと小、中重なることで重点的にみることができません。もっと配慮が必要です。
- 小中一貫も必要かもしれませんが、それぞれに専門性を生かして、その学年で身につけさせることをしっかり身につけさせてくれることに親は期待しています。



〈中学校職員授業参観〉

(3) 合唱コンクールへの参加について

中学校の合唱コンクールへの参加については、小学6年生に対して今回、初めて行う交流行事である。構想としては、今年度は、見学のみ。次年度は、参加というように2年計画で検討している。

① ねらい

- ア. 小学生がコンクールを参観することで、神原中校区小中一貫教育校の取り組みを強化する。
- イ. 本格的な場所での中学生の発表を鑑賞することで、ステージマナーや鑑賞マナーを体得する。

② 日時 10月31日(水) 14:30～15:30

③ 場所 那覇市民会館大ホール

④ 仕事分担

	仕事内容	担当教師
1	日程調整	各校教務
2	アンケート作成	神原中
3	写真撮影	神原中
4	会場表示	神原中
5	児童の引率・安全指導	各6年担任
6	会場での誘導	神原中
7	アンケート配布	各校教務
8	アンケート集計	神原中
9	児童の感想	各6年担任

⑤ 当日の日程

神原中学校		神原・壺屋小学校	
13:45 ～ 14:35	1・2年生 合唱	14:30 ----- 14:35	那覇市民 会館集合 二階席に 入場
14:45 ～ 15:25	3年生合唱	14:45 ～ 15:25	鑑賞
15:25 ～ 16:25	アトラクション 閉会式	15:25	退場 (静かに)



<児童の感想>

- ・思っていたより、みんなの息が合っていて、声の響きもきれいでした。私も中学生になったら合唱コンクールがあるので頑張りたいです。
- ・失礼ですけど、中学生は遊んでばかりとっていました。でも、合唱コンクールでは、それぞれが自分の持つ声で一所懸命歌っていたので感動しました。また、ユーモアもあり、メリハリがはっきりしているなども思いました。僕もこんな中学生になりたいです。
- ・中学生の合唱コンクールでは、先輩達が協力し合って、一所懸命歌っていることに感動もしたし、かっこいいなと思いました。このコンクールを見て、日頃担任の先生が言っている「もっと声を出さない。」という意味がよく分かりました。みんなで協力し合って取り組んだら、こんな素晴らしい中学生みたいな歌になるよということかなと思いました。

(4) 小中特別支援学級の交流会について

① ねらい

神原中校区の小学校二校と中学校の特別支援学級に在籍する児童並びに生徒が集い合って、レクリエーションをすることで、人的交流の体験を深めたり、その楽しさを味わわせる。

② 日時 11月28日(水) 9:55～11:45

③ 場所 神原中学校 武道場

④ 参加者

学 校	クラス	児童・生徒	引 率
神原小学校	幟いきこえ	12人	5人
壺屋小学校	ひまわり	3人	2人
神原中学校	特別支援・難聴	6人	4人
合 計		21人	11人

⑤ 持ち物

体育着着用(赤白帽も)、上履き、水筒
※体育着、上着の胸の方にガムテープで名札を貼っておく。

⑥ 役割分担

	仕 事 内 容	担当教師
1	交流会の進行	神原中
2	交流会の司会	神原中学生徒
3	プログラム表・成績表	神原中学生徒
4	写真撮影	神原中
5	視聴覚機器の準備	神原中
6	ビブス・デカパン・空気入れ・バドミントン用ラケット・テニスボール	神原中
7	BGM	壺屋小
8	玉入れのかごと玉・大玉2個(中学校へ前日搬入)	神原小

⑦ 交流会内容

	内容	留意事項
1	開会式 ①はじめのことば ②歌「ゴーゴーゴー」 ③自己紹介 ④校長先生の挨拶	司会(中学生) 神原中
2	準備運動	
3	大玉転がし	二人一組
4	デカパン競走	二人一組でA、Bの二組でリレー方式で競技
5	ラケットボール運び	個人競技
6	自由遊び	休憩を取りながら、コミュニケーションを図る
7	玉入れ	円形で二組で競う
8	じゃんけん列車	じゃんけんをする相手は自分で探す
9	閉会式 ①成績発表 ②感想発表 ③先生からの一言 ④終わりの言葉	司会(中学生) 神原中 神原小 神原中学生徒



<小学生の感想・絵>

- ・ラケットボールは、ぼくは、とくいなのでバランスよくやりました。玉入れは、赤ぐみが、しょっちゅうかってたけど、たのしかったです。
- ・プログラム3番のゲームで一番楽しかったことは、全部です。なぜなら、みんないっしょうけんめいやってくれたり、友達と仲良く遊べたからです。この交流会を計画してくださった先生方ありがとうございました。

<中学生の感想>

- ・私は、開会式の司会をしました。一番楽しかったことは、キャッチボールでした。ともや、みつひと、心、アルシーバル君でキャッチボールをしました。楽しかったです。
- ・僕は、とっても楽しかったです。皆と一緒に楽しく遊んで、僕はとってもうれしかったです。歌はとても恥ずかしかったけど、すこし歌っていたらとてもおもしろかったです。

(5) その他

今年度、計画とは別に新しい取り組みも行いました。児童会と生徒会の交流という趣旨で、リーダー研修会に児童会が参加しました。



<研修(オリエンテーリング)に参加>

3. 成果と課題

(1) 成果

① 職員アンケートより

ア. 小中合同保護者授業参観

- ・乗り入れ授業(小→中1へ)によって、中1生徒への声かけができ、生徒とのコミュニケーションを取ることができた。
- ・日程調整が難しい中、乗り入れ授業が行えたことはよかった。
- ・小中の足並みをそろえて行えることに意義がある。
- ・小学生側としては、関心に結びつけて、いい効果があると思われる。
- ・生徒以上に職員同士のつながりが期待できる。
- ・1校時に神小、2校時に神中で授業であったが、間が30分あったので、ある程度以上ゆとりを持って対応することができた。

イ. 合唱コンクール

- ・中学校の様子が分かり、良い。一所懸命な中学生を見ることで良い刺激を受けることができる。
- ・見学は、今回のように3年生の合唱だけで良い。真剣な態度に感動できた。
- ・移動が大変ではあるが、見学に行くと、音楽の授業の視点からも、小中の合同行事としても意味があったと思う。今後も続けて良いかと思う。

- ・音楽科としっかり確認がとれ、良かった。
- ウ. 小中特別支援学級の交流会
 - ・去年の課題もクリアしていったので良かった。(時間の調整・連絡・大玉ころがしを小中ペアでやる。助け合う場面が見られる。)
 - ・競技種目も小中の児童生徒がペアになり、中学生が小学生を他の学校の高学年が他の学校の低学年の世話をする場面が見られて良かった。
 - ・休憩時間に自由遊びを取り入れたが小中一緒に遊んで一番楽しそうでした。
 - ・あいさつが去年より上手にできたと思う。(特に中学生)

② まとめ

検証(アンケート)の結果、今年度の成果として以下の点が挙げられる。

- 合同で行事を行う際の3校の連絡調整、役割分担、時間調整、移動等の計画実施に向けての対応の方法を知ることができた。
- 昨年度の成果と課題を踏まえ、小学校、中学校が足並みをそろえて交流行事を行うことで、昨年より一歩進めた形にすることができた。
- ねらいにせまる取り組みができたが、計画、実施した中で、新たな課題も明らかになってきた。

(2) 課題及び改善点

① 職員のアンケートより

ア. 小中合同保護者授業参観

- ・乗り入れ授業を行う場合、学年間、学校間での調整や教材研究をしなければならず、時間確保等、負担がかかる。
- ・乗り入れ授業についての共通理解が必要。(職員の役割)
- ・効果があるかどうかはわからない。取り組みを続け、検証する必要がある。

イ. 合唱コンクール

- ・中学での取り組みが、見学前には児童に分かるようにすると、見学したときの感じ方が、今より深くなるのではないかな。

- ・今年度は、2回部活動見学が組まれていたが、初めから1回計画し、合唱コンクールなど、学習面での取り組みの様子がわかる、または、交流できることを計画した方が良い。
- ・小学生が歌う案はなしがいいと思う。あこがれを持たせる意味でも、舞台には上がらない方が良い。
- ・児童を舞台にあげて合唱ができればよいかな、例えば校歌など歌う。
- ・中学校の行事に参加するのはよかった。だからその逆もやる必要がある。
- ウ. 小中特別支援学級の交流会
 - ・今後、可能なら体を動かす活動(交流)以外の交流も考えてみてほしいと思う。
 - ・中学生には物足りなくなってしまう内容をどうするか。(中学生向きの種目を入れる。)
 - ・各小中間の日程調整、連絡のやりとり。(次年度準備段階で早めの日程調整)
 - ・競技種目のラケットボール運びは難しい子もいるので考慮する必要がある。
 - ・フリータイム用の遊び道具も準備した方が良かった。

② まとめ

以下のような課題が浮き彫りになった。

- 3校の担当で役割についてしっかり確認することが計画を実施する上でとても重要である。そのため、事前の話し合いの時間を確保することが課題である。
- 行事によっては、計画を立てる前も時間の確保が必要だが、計画が決定し動き始めてからも、それぞれの担当で実施に向けての打合せ・準備等の時間の確保が必要なので、取り組み期間をしっかりと見定めることが課題である。
- 交流部会の取り組みは、形になって出来つつはあるが、一つ一つの行事に対し、再度、工夫改善をし来年度からの取り組みにつなげていくことが今後の課題である。